2027 年４月入学

北海道大学大学院工学院

博士後期課程

学　生　募　集　要　項
（一般入試・社会人入試　第２次）

北海道大学大学院工学院

2027 年４月入学

一般入試・社会人入試　募集人員

専　　攻	募集人員	専　　攻	募集人員
応　用　物　理　学	若干名	環境フィールド工学	若干名
材　料　科　学	若干名	北方圏環境政策工学	若干名
機　械　宇　宙　工　学	若干名	建築都市空間デザイン	若干名
人間機械システムデザイン	若干名	空　間　性　能　シ　ス　テ　ム	若干名
エネルギー環境システム	若干名	環　境　創　生　工　学	若干名
量　子　理　工　学	若干名	環　境　循　環　シ　ス　テ　ム	若干名

【重要】志願者のみなさまへ

不測の事態が発生した場合，募集要項に記載の内容と異なる内容で試験を実施する可能性があります。入試方法の変更等は，下記本学院ホームページで公表しますので，随時確認してください。

北海道大学大学院工学院 入試情報　https://www.eng.hokudai.ac.jp/graduate/examinfo/

【外国籍の出願者への留意事項】

＜ビザ/在留資格について＞

〇本学で外国人留学生として在籍するには，在留資格「留学」を取得する必要があります。在留資格「留学」の申請に必要な「在留資格認定証明書」は，申請から発行までに３ヶ月以上かかる場合もありますので，あらかじめご了承願います。なお，在留資格取得にかかる手続きについては，以下の本学webサイトを参照してください。

日本語版：　https://intl-student-handbook.oia.hokudai.ac.jp/preparation/visa

英 語 版：　https://intl-student-handbook.oia.hokudai.ac.jp/en/preparation-en/visa-en

＜安全保障輸出管理について＞

〇本学では「外国為替及び外国貿易法」に基づき「北海道大学安全保障輸出管理規程」を定めて貨物の輸出，技術の提供（人の受入を含む）について厳格な審査を実施しています。

〇規制事項に該当する場合は，希望する教育が受けられない又は研究が実施できない等の制限がかかる場合があります。

〇安全保障輸出管理にかかる具体的な規制事項等の詳細については，以下の経済産業省のウェブサイトを参照してください。

《経済産業省ウェブサイト》https://www.meti.go.jp/policy/anpo/

目　　次

教育目標とアドミッションポリシー 1

一般入試 2
1．募 集 人 員 2
2．出 願 資 格 2
3．出願資格予備審査 3
4．出 願 方 法 4
5．出 願 書 類 等 5
6．試験日及び選考方法 7
7．合 格 発 表 8
8．入学料及び授業料 8
9．e^3プログラムについて 8
10. 在学期間の短縮による修了について 8
11. 長期履修制度について 8
12. 注 意 事 項 8
13. 個人情報の取扱いについて 8
14. そ の 他 9
社会人入試 10

長期履修の申請資格，申請手続き等について 11
「博士後期課程（社会人入試）志願者の研究業績等調書」記載例 12
指導教員及びその研究分野一覧表 13

教育目標とアドミッションポリシー

・教育目標

本学院の目標は，人類の長い歴史の中で営々と積み重ねられてきた学問の成果の継承と，それを基にした新たな科学・技術の創造を通じて，幅広い工学分野における基礎的素養と高度な専門的素養を身に付け，グローバル化や科学技術の高度化，研究領域の学際化等に柔軟に対応できる多様な知識と思考力，判断力，実務対応能力を持つ人材を育成することにあります。

・求める学生像

博士後期課程

(1)幅広い教養と科学・技術に関する広い視野からの豊富で高度な専門知識を有し，それらを活かして問題 解決を図るために必要な優れた思考力および判断力を有する学生

(2)様々な考えを持つ世界中の人達との相互理解を可能とする高いコミュニケーション能力を有する学生

(3)上記の知識や能力の継続的な習得や向上に意欲を持った学生

(4)社会で生じている様々な問題について自ら考え解決するとともに，問題解決を通して新たな科学・技術を創造する意欲と実行力のある学生

上記の学生には本学院入学前に博士後期課程での学修や研究に必要な専門分野に関わる高い学力や倫理観を習得していることを期待します。

・入学者選抜の基本方針

本学院では，国籍を問わず，理工系の専門分野を卒業し，工学分野の修士，博士の学位を取得しようとする人物，並びに学部卒業及び修士修了後に社会で活躍しながら博士の学位を取得しようとする有為の人物を下記の入学試験で選抜しています。

博士後期課程入試（一般入試・社会人入試・外国人留学生入試）

博士後期課程入学試験では，修士論文又はこれに代わる研究業績，専門分野及び外国語に関する学力，研究能力，研究課題に取り組む意欲並びに入学後の研究計画等について，口述試験・口頭試問及び出願書類等により総合的に評価し，入学者を選抜します。なお，専攻が必要と認める場合には，専門分野又は外国語に関する筆答試験を課すことがあります。

一般入試

１．募 集 人 員

専　　攻	募集人員	専　　攻	募集人員
応 用 物 理 学	若干名	環境フィールド工学	若干名
材 料 科 学	若干名	北方圏環境政策工学	若干名
機 械 宇 宙 工 学	若干名	建築都市空間デザイン	若干名
人間機械システムデザイン	若干名	空 間 性 能 シ ス テ ム	若干名
エネルギー環境システム	若干名	環 境 創 生 工 学	若干名
量 子 理 工 学	若干名	環 境 循 環 シ ス テ ム	若干名

２．出 願 資 格

（１）修士の学位又は専門職学位を有する者及び 2027 年３月までに修士の学位又は専門職学位を授与される見込みの者

（２）外国の大学において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2027 年 3 月までに授与される見込みの者

（３）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2027 年 3 月までに授与される見込みの者

（４）我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2027 年３月までに授与される見込みの者

（５）国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和 51 年法律第 72 号）第１条第２項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者及び 2027 年３月までに授与される見込みの者

（６）外国の学校，（４）の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第 16 条の２に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者及び 2027 年 3 月までに認められる見込みの者

（７）文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）
「大学を卒業し，大学，研究所等において，２年以上研究に従事した者で，本学院において，当該研究の成果等により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」及び「外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後，又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後，大学，研究所等において，２年以上研究に従事した者で，本学院において，当該研究の成果等により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」

（８）本学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，2027 年 3 月 31 日までに 24 歳に達する者（以下「個別の資格審査による志願者」という。）

※社会人入試志願者は，10 ページを参照すること。

３．出願資格予備審査

≪出願資格予備審査 インターネット出願登録期間≫

2026 年 11 月 11 日（水）午前 10 時から 11 月 16 日（月）午後５時まで

≪出願資格予備審査 出願書類の提出期間≫

2026 年 11 月 11 日（水）午前 10 時から 11 月 16 日（月）午後５時まで

※郵送の場合も期間内必着とします。

「２．出願資格」の（７）及び（８）による志願者は，願書を受理する前に出願資格に関する予備審査を行いますので，上記の期間内に「４．出願方法」に従い，「①インターネット出願サイトへの登録」を行ってください。出願登録後，入学願書・履歴書を除いた出願書類（５～６ページ参照）を用意し，下記「①出願資格予備審査提出書類」を添えて，「４．出願方法」に記載の出願書類提出先に提出してください。

①出願資格予備審査提出書類

出願資格予備審査では，入学願書･履歴書を除いた出願書類（５～６ページ参照）に加えて，下記の書類が必要です。出願資格予備審査申請書には，志望する指導教員及び志望する専攻の専攻長の確認印が必要となりますので，時間には余裕を持って書類を準備してください。

出願資格	提出書類
（７）文部科学大臣の指定した者	○出願資格予備審査申請書（本学院 HP からダウンロードすること） ○研究業績目録・主たる研究論文（コピー）（様式任意） ○研究課題・研究期間についての研究歴を証する所属長の証明書（様式任意） ○卒業証明書
（８）個別の資格審査による志願者	○出願資格予備審査申請書（本学院 HP からダウンロードすること） ○研究業績目録・主たる研究論文（コピー）（様式任意） ○研究課題・研究期間についての研究歴を証する所属長の証明書（様式任意） ○最終出身学校等の卒業証明書 ○最終出身学校等の成績証明書

②出願資格予備審査結果通知

出願資格予備審査の結果は，2026 年 12 月３日（木）に E メールにて通知します。出願資格を認められた者は，「４．出願方法」に記載の「検定料納入期間」内にインターネット出願サイトから検定料を納入してください。所定の期間内に検定料を納入しない場合は，出願を無効とします。

検定料を納付した後，同サイトから入学願書等（PDF）をダウンロードし，履歴書のページ下部に日付の記入及び署名をしたうえで，10 ページに記載の連絡先に提出することで，出願手続きが完了となります。

なお，12 月 10 日（木）までに予備審査の結果通知が届かない場合は，受信先メールアカウントの迷惑メール等のフォルダに入っていないか確認した上で，連絡先までお問い合わせください。

４．出願方法

本学院への出願は，①インターネット出願サイト(http://e-apply.jp/e/hokudai-eng)への登録，②検定料の納入，③出願書類の提出，これらすべてが指定の期間内に行われたことをもって完了します。

指定の期間内に全ての作業が完了しなかった場合，途中まで作業を行っていた場合であっても，一切の受付はできませんので注意してください。

≪インターネット出願登録および検定料納入期間≫

2026 年 12 月 17 日（木）午前 10 時から 12 月 25 日（金）午後５時まで

≪検定料≫

30,000 円

≪出願書類の提出期間≫

2026 年 12 月 17 日（木）から 12 月 25 日（金）まで

※郵送受付のみ，12 月 25 日（金）消印有効（海外からの郵便は追跡番号で発送日を確認します）

≪出願書類提出先≫

〒060-8628　札幌市北区北 13 条西８丁目
北海道大学工学系事務部　教務課大学院担当

①インターネット出願サイトへの登録

一般入試及び社会人入試で出願する者はインターネット出願サイト(https://e-apply.jp/e/hokudai-eng)から，「日本語」を選択し，出願ページに進んでください（注：「英語」からは出願登録ができません)。その後，「はじめに」を確認した上で，「募集要項・出願する」から，画面の指示に従い出願登録を行ってください。

※インターネット出願サイトへは，本学院 HP（https://www.eng.hokudai.ac.jp/graduate/）の「入試情報」からもアクセスできます。

②検定料の納入

インターネット出願サイトで必要な登録作業を行った後，同サイトにて検定料を支払ってください。

支払い方法は，コンビニエンスストア，郵便局・銀行の ATM，ネットバンキング，クレジットカード，中国銀聯ネット決済の中から選択ができます。(支払いに際し，決済手数料 500 円が必要となります)

郵便局・銀行の「窓口」での支払いはできませんので注意してください。

支払い方法の詳細については，インターネット出願サイトをご覧ください。

【重要】現在本学大学院修士課程・専門職学位課程を修了見込みの者で，間を空けずに引き続き工学院博士後期課程に進学する者及び国費外国人留学生は検定料の納付が不要となります。該当の志願者はインターネット出願サイトで出願登録を完了した後，入金手続き前に教務課大学院担当（k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp）宛に E メールにて，現在の所属，学生番号，氏名を記載の上，出願登録を完了した旨をご連絡ください。

なお，既納の検定料はいかなる理由があっても返還しませんので，ご注意願います。ただし，次の場合のみ返還に応じます。

①検定料を払い込んだが北海道大学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合

②検定料を誤って二重に払い込んだ場合

（注）出願期間内に願書の提出が完了しない場合，検定料を支払っていても出願は認められませんので，検定料の支払いは余裕を持って行うようご注意ください。

③出願書類の提出

検定料の支払い完了後，インターネット出願サイトから「入学願書」・「履歴書」をダウンロード（PDF）し，それぞれをカラー印刷（両面印刷不可）した上で，出願期間内に出願書類等（５～６ページ参照）とあわせて上記願書等提出先に郵送してください。※検定料の支払いが完了するまでは，入学願書等のダウンロードができませんのでご注意ください。願書等を郵送する際は，ダウンロードした PDF ファイル４枚目に添付されている郵送用宛名ラベルを使用して，必ず書留郵便で送付してください。

５．出願書類等

≪出願に当たっての留意事項≫

出願に際しては，事前に指導を希望する教員に連絡を取ることが必要です。教員の研究分野及び連絡先等については，13 ページ以降の「指導教員及びその研究分野一覧表」及び本学院 HP で確認してください。

	提出書類	摘要
―	出願書類チェック表	・本学所定様式。本学院 HP からダウンロードすること。 ・下記出願書類と一緒に提出すること。
1	入学願書・履歴書	・インターネット出願完了後に出力可能となる PDF を，A4 版の用紙にカラー印刷すること。 ・出願後に転居等で連絡先を変更する場合は，教務課大学院担当に申し出ること。
2	入学願書用写真	・インターネット出願サイトにアップロードすること。なお，一旦アップロードすると，その後は向きの変更ができないため，アップロードする際の写真の向きには十分注意すること。 ・上半身脱帽，正面向。3ヶ月以内に撮影したもの。 ・写真サイズは1MB 以上，3MB 以下とすること。
3	修士論文の概要又は 修士課程における研究等の概要	・様式任意。A4 判用紙1～2枚程度 ・2027 年3月までに修士の学位又は専門職学位を授与される見込みの者及び外国の大学において基礎力審査に相当するものに合格した者は，修士論文概要に代えて，「研究の経過の概要」（A4 判用紙2枚程度で様式任意）を提出すること。 ・出願資格（7）及び（8）により出願する者は提出不要。
4	受験票送付用封筒	・角形2号（角2）封筒（240mm×332mm）を用意すること。 ・本学院 HP から「受験票送付用宛先ラベル」をダウンロードし，カラー印刷すること。 ・受験票送付先の住所（研究室不可），氏名，受験専攻を記入の上，封筒に貼付すること。 ・封筒には 480 円分の切手を貼付すること。
5	合否通知用封筒	・角形2号（角2）封筒（240mm×332mm）を用意すること。 ・本学院 HP から「合否通知用宛先ラベル」をダウンロードし，カラー印刷すること。 ・合否通知送付先の住所（研究室不可），氏名，受験専攻を記入の上，封筒に貼付すること。 ・切手の貼付は不要。
6	大学院成績証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学研究科・工学院又は情報科学院の出身者は提出不要。 ・大学院在籍歴がない者は提出不要。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は，「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・中国高等教育学生信息网（CHSI：China Higher Education Student Information）が発行する英語による成績証明書を印刷して提出すること。 ・CHSI が発行した成績証明書の PDF データを本学院（k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp）宛にメール送信で提出することも可とする。 ・提出の際は，CHSI 発行の成績証明書に記載されている ID 番号のうち，アスタリスク（＊）で表示されている４桁の数字を連絡してください。また，提出時点で Web 認証の有効期限が 15 日以上残っていることを確認してください。 ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので，時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては，出願書類として受け付けないので十分注意すること。
7	学部成績証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学部出身者は提出不要。 ・大学在籍歴がない者は提出不要。 ・高等専門学校専攻科修了者は，本科及び専攻科の成績証明書を提出すること。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は，「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・中国高等教育学生信息网（CHSI：China Higher Education Student Information）が発行する英語による成績証明書を印刷して提出すること。 ・CHSI が発行した成績証明書の PDF データを本学院（k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp）宛にメール送信で提出することも可とする。 ・提出の際は，CHSI 発行の成績証明書に記載されている ID 番号のうち，アスタリスク（＊）で表示されている４桁の数字を連絡してください。また，提出時点で Web 認証の有効期限が 15 日以上残っていることを確認してください。 ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので，時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては，出願書類として受け付けないので十分注意すること。

8	修了(見込)証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学研究科・工学院又は情報科学院の出身者は提出不要。 ・大学院在籍歴がない者及び外国の大学において基礎力審査に相当するものに合格した者は提出不要。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は,「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 ・留学生については, 発行機関が原本証明した学位記のコピーによる提出も可とする。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・出身大学(研究科)長が作成した原本を提出すること。 ・発行機関が原本証明した学位記のコピーによる提出も可とする。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は,「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 ◎修了(見込)証明書に加えて, 以下の書類を提出してください。 既修了者 … a 学歴証書電子登録票(教育部学历证书电子注册备案表) … b 卒業証書(毕业证书)及び学位証書(学位证书) 修了見込者 … a オンライン在籍認証レポート(教育部学籍在线验证报告) 上記のうち, 書類 a は中国教育部認証システム(中国高等教育学 历证书查询 http://www.chsi.com.cn/xlcx/bgys.jsp)より取得してください。 また, 提出時点で Web 認証の有効期限が 15 日以上残っていることを確認してください。
9	【該当者のみ提出】 博士論文研究基礎力審査に相当する審査に係る確認書	・外国の大学において基礎力審査に相当するものに合格した者のみ提出。
10	【社会人入試志願者】 研究業績等調書	・様式任意。12 ページの記載例を参考に, 在職中に行った専攻分野に関する研究実績を記載すること。
11	【社会人入試志願者のうち, 官公署在職者】承諾書	・様式任意。人事等の責任者の承諾を得ていることが確認できる書類。
12	【外国人留学生のみ提出】 最終出身学校の指導教員の推薦書	・様式任意(ただし, 指導教員の手書きのサインが書かれたもの)。コピーは不可。 ・本学工学研究科, 工学院, 工学研究院の出身者は不要。現在工学研究院に在籍している研究生については, 研究生出願時に提出した推薦書のコピーによる提出も可。
13	【外国人留学生のみ提出】 在留カードのコピー	・本邦外に居住する外国人で本邦に上陸の日から60 日を超えない外国人については代わりにパスポートのコピー。

６．試験日及び選考方法

①試験日：2027年２月15日(月)～16日(火)
　試験の日時及び試験室等の詳細については，受験票の送付時に通知します。

②選考方法

専　　攻	選考方法
応用物理学専攻	修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する試問（口述試験・口頭試問）および出願書類の審査結果を総合して合否を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。
材料科学専攻	修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する試問（口述試験・口頭試問）および出願書類の審査結果を総合して合否を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。
機械宇宙工学専攻	修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する試問（口述試験・口頭試問）および出願書類の審査結果を総合して合否を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。
人間機械システムデザイン専攻	修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する試問（口述試験・口頭試問）および出願書類の審査結果を総合して合否を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。
エネルギー環境システム専攻	【エネルギー生産・環境システム講座】 修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等，専門科目及び外国語の学力（口述試験），入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。 【応用エネルギーシステム講座】 修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する試問（口述試験・口頭試問）および出願書類の審査結果を総合して合否を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。
量子理工学専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等，専門科目及び外国語の学力（口述試験），入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。
環境フィールド工学専攻	修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する試問（口述試験・口頭試問）および出願書類の審査結果を総合して合否を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。
北方圏環境政策工学専攻	修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する試問（口述試験・口頭試問）および出願書類の審査結果を総合して合否を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。
建築都市空間デザイン専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等，専門科目及び外国語の学力（口述試験），入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。
空間性能システム専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等，専門科目及び外国語の学力（口述試験），入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。
環境創生工学専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等，専門科目及び外国語の学力（口述試験），入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。
環境循環システム専攻	修士の学位論文又はこれに代わるものの審査（口述試験・口頭試問）等，専門科目及び外国語の学力（口述試験），入学後の研究計画等の審査結果を総合して合格者を決定します。原則として筆答試験は行いません。ただし当該専攻が必要と認めるときは，学科試験を課すことがあります。

７．合　格　発　表

合格者の受験番号は，2027 年３月１日（月）午後４時 30 分に本学院 HP において掲示発表の予定です。別に受験者全員（当日の試験を欠席した者を除く）に対し合否を通知します。

なお，合格者には，併せて入学手続きに関する書類を同封します。入学手続き期間など重要なことが記載されておりますので，３月５日（金）までに届かない場合は，10 ページに記載の連絡先までご連絡ください。

８．入学料及び授業料

（１）入学料　282,000 円

※ただし，本学大学院修士課程を修了し，引き続き博士後期課程に進学する者については入学料の納入を要しません。

（２）2027 年度前期分授業料　267,900 円（年額 535,800 円）

（注）①上記金額は予定額です。入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には，改定時から新たな納付金が適用されます。

②入学手続期間内に入学料を納めなければ，入学の意志がないものとして取り扱います。

③授業料を当該学期中に納付しなかった場合除籍になります。経済的理由により納付が困難な場合は，減免（猶予）申請もあります。

９．e^3 プログラムについて

本学院では，英語を使用言語として修士及び博士の学位取得が可能な，グローバル工学人材養成プログラムによる e^3 プログラム（English Engineering Education Program，略称 e^3）を設置しています。

本プログラムでは，課程修了に必要な授業が英語で開講され，論文発表，研究指導なども全て英語で行われます。

プログラムへ参加を希望する場合，大学院入学試験に合格したうえで，以下の e^3 プログラムのホームページに示す英語力の資格を満たすことが必要です。（http://www.eng.hokudai.ac.jp/e3/）

参加の申し込みに当たっては，指導予定教員とよく相談をするようにしてください。

※日本人学生が，e^3 プログラムに参加した場合は，希望者に対して選考のうえ奨学金を給付します。

10. 在学期間の短縮による修了について

在学中の成績が優秀で十分な研究業績が認められれば，修学期間を短縮することができます。

基準等については，入学してから各専攻で確認してください。

11. 長期履修制度について

長期履修制度とは，職業を有している等の事情で，単位取得や研究指導を受ける時間に制限のある学生が，標準修業年限（博士後期課程３年）を超えて計画的に学修することを希望した場合，学生からの申請に基づき学院において審査を行い，その長期的な履修を認めることができる制度です。申請資格，申請手続き等は 11 ページのとおりです。なお，長期履修の申請に当たっては，事前に，指導予定教員とよく相談をしてください。

12. 注　意　事　項

（１）入学試験当日は，受験票を必ず持参して机上に置いてください。

（２）出願書類等に不備がある場合は受理できませんので，誤記や記入漏れのないように注意してください。

（３）出願に係る全ての書類は願書受理期間内に提出してください。願書受理期間終了後は，不足した書類等に係る相談は受け付けられません。

（４）出願後はいかなる事情があっても志望の変更を認めません。

（５）一度受理した出願書類等は，いかなる事情があっても返還しません。

（６）出願書類等に虚偽の記載が発見された場合は，入学許可を取り消すことがあります。

（７）本学院では，原則として二重学籍を認めていません。

13. 個人情報の取扱いについて

（１）本学が保有する個人情報は，「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに，「国立大学法人北海道大学個人情報管理規程」に基づき，保護に万全を期しています。

（２）出願に当たってお知らせいただいた氏名，住所その他の個人情報については，①入学者選抜（出願処理，選考実施），②合格発表，③入学手続，④入学者選抜方法等における調査・研究，及び⑤これらに付随する業務を行うために利用します。

（３）出願に当たってお知らせいただいた個人情報は，合格者のみ入学後の①教務関係（学籍，修学指導等），②学生支援関係（健康管理，奨学金申請等），③就職支援関係，④授業料等に関する業務，⑤図書館利用に関する業務，⑥情報教育施設利用に関する業務，⑦災害緊急時の安否確認等の業務，⑧広報関係（広報物，行事のご案内等の送付），⑨本学関連団体の運営補助に関する業務（名簿管理，身分確認，会員登録業務等），⑩卒業生電子名簿に関する業務を行うために利用します。

（４）（３）の個人情報について，①北海道大学フロンティア基金，②北海道大学体育会，③北海道大学工学部同窓会，④北海道大学工学部北工会，⑤北海道大学校友会エルムから要請があった場合は，安全確保の措置を講じた上で，当該団体の円滑な活動・運営のため，（３）①，⑧～⑩の業務に必要な範囲に限り提供する場合があります。

（５）各種業務での利用に当たっては，一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下，「受託業者」という。）において行うことがあります。業務委託に当たり，受託業者に対して，委託した業務を遂行するために必要となる限度で，お知らせいただいた個人情報の全部又は一部が提供されます。

14. その他

（１）入学願書を受理した者には，2027 年２月上旬に受験票を送付します。

（２）入学志願者で身体に障害のある者は，あらかじめ受験上や修学上の対応が必要となる場合があるので，2026 年 12 月 25 日（金）までに教務課大学院担当に申し出てください。

社会人入試

１．出願の要件

出願時に教育・研究機関，会社等に勤務経験を有すること。

２．選考方法

修士論文又は研究業績等調書を中心とする専攻分野に関する諮問及び出願書類の審査結果を総合して合否を決定する。ただし，当該専攻が必要と認めるときは，学科試験（専門科目・外国語）を課すことがあるので，事前に指導予定教員に問い合わせること。

３．選抜試験の期日及び時間等

2027年２月15日(月)～16日(火) の間で当該専攻が指定する日時

※上記以外の事項については，一般入試募集要項を参照すること。

2026 年 11 月

北海道大学大学院工学院
《連絡先》
〒060-8628　札幌市北区北 13 条西８丁目
北海道大学工学系事務部
教務課　大学院担当
電話（011）706－6121
k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp

長期履修の申請資格，申請手続き等について

１．申請資格

長期履修を申請できる者は，次のいずれかに該当する者とします。

（１）官公庁，企業等に在職している者（給与の支給を受け，職務を免除されている者を除く。）又は，自ら事業を行っている者等フルタイムの職業に就いている者

（２）アルバイト，パートタイム等の職業に就いている者で，学院において，その負担により修学に重大な影響があると認めたもの

（３）学院において，育児，親族の介護等前２号に準ずる負担により，修学に重大な影響があると認めた者

（４）視覚障害，聴覚障害，肢体不自由その他の障害を有している者で，学院において，その障害により長期にわたり修学に重大な影響があると認めたもの

２．申請の手続き

長期履修を申請する者は，次の（１）～（４）の書類を入学願書に添えて提出してください。

申請書用紙の請求については，教務課大学院担当までご連絡ください。

（１）長期履修申請書及び理由書

（２）履修計画書

（３）長期履修が必要であることを証明する書類等

（４）障害者手帳又は医師の診断書（上記１．申請資格（４）に該当する者のみ提出）

３．可否の通知

申請書類に基づき審査のうえ，可否を決定し，３月中旬に通知します。

４．在学期間

長期履修学生として在学することを認められる期間は，１年を単位とし，博士後期課程にあっては４年から６年までとなります。

なお，各年度の修了月は，９月又は３月となっていますので，長期履修申請書に長期履修計画年数を記入してください。

５．授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は，授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を許可された在学期間の年数で除した額となります。（授業料の改定時期によっては，修了までの納入予定総額が当初の予定より増額することがあります。）詳しくは，教務課大学院担当にお問い合わせください。

６．在学期間の短縮，解消又は延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は，在学する課程において，１回に限り期間の変更（短縮，解消又は延長）を申請することができます。

（１）在学期間の短縮及び解消

長期履修期間の短縮を認めることのできる期間は，博士後期課程にあっては，６年から５年又は４年への短縮，５年から４年への短縮の場合です。長期履修期間の１年短縮を希望する場合は，長期履修期間が終了する日の１年６ヶ月前（博士後期課程において２年短縮を希望する場合は，２年６ヶ月前）までに「長期履修期間変更願」を提出し，許可を得なければなりません。一度認められた長期履修を解消し，履修期間を標準修業年限に戻すことも可能ですが，修了希望日の６ヶ月前までに「長期履修期間変更願」を提出し，学修成果や研究状況等について十分な進捗が得られていると認められなければなりません。

（２）在学期間の延長

長期履修学生は，在学期間の延長をすることができます。

在学期間の延長を希望する者は，当初の長期履修期間が終了する日の１年前までに「長期履修期間変更願」を提出し，許可を得なければなりません。なお，在学期間は，博士後期課程６年を超えることができません。

（３）在学期間の短縮，解消又は延長の場合には授業料の再計算が行われ，いずれも在学期間に応じて過不足の調整がなされますが，既納の授業料は返還されません。

７．その他

長期履修の申請は，入学時のほかに，２年次・３年次進級時にも行うことができます。ただし，その場合，授業料の総額が，入学前に長期履修を申請した場合に比べ増額となりますので，ご注意願います。（最終年次での申請はできません。）不明の点については，教務課大学院担当までご連絡ください。

「博士後期課程（社会人入試）志願者の研究業績等調書」記載例

１．志願者
　　○○○○○　　（昭和○○年○○月○○日生（ ○○才））
　　現　住　所　　○○○○○○○○○○○○○○

２．志願専攻名　　◎◎◎◎専攻

３．指導予定教員
　　○○○○○教授（○○○部門○○○講座）

４．学歴等
　　○○年○○月　　○○○○○○高等学校卒業
　　※高等学校卒業以降の学歴について、入学と卒業（修了）の順で記載してください。

５．職歴
　　○○年○○月　　○○○○会社○○○部に入社
　　○○年○○月　　○○○○会社○○○研究所に○○○として勤務
　　○○年○○月　　○○○○大学○○○学部に○○として勤務

６．研究歴
　　○○年○○月　　○○○○会社○○○研究所において○○○○の研究に従事
　　○○年○○月　　○○○○大学○○○学部において○○○○の研究に従事

７．研究業績（該当の無い項目には「無し」と記載）
　１）学会誌発表論文（論文題名、全著者名、雑誌名、巻号、掲載頁（最初～最後）、発行年）
　　（注：レフェリー制のあるジャーナル誌に掲載されたもの）
　２）上記１）に準ずるその他の論文（論文題名、全著者名、雑誌名、巻号、掲載頁（最初～最後）、発行年）
　３）研究報告（報告題名、全報告（著者）名、報告書名、巻号、掲載頁（最初～最後）、発行年）
　４）学術講演（演題名、全講演（著者）名、学会等名、開催場所、開催年）
　５）学会活動
　６）特許（出願名、出願者名、出願年）

８．研究計画　* 指導予定教員と相談のうえ作成のこと。
　１）研究課題
　２）研究の概要
　３）在学予定期間　（○○年○○月～○○年○○月まで○○年間）
　４）修学予定条件
　　ⅰ.研究指導（例：年○週間／月○○日／週○日程度来学し、研究指導等を受ける）
　　※研究指導に必要な時間の考え方
　　１日６時間として、３年間で修了する場合２週間以上のスクーリングを目安としている。
　　ⅱ.研究指導計画等の概要
　　ⅲ.履修授業科目（例：◎◎◎◎特別研究　６単位と、○○特論、○○特論等計４単位を課す、E ラーニングを利用して受講。など）

指導教員及びその研究分野一覧表

2026年11月1日 現在
北海道大学大学院工学院

専攻	講座	教員		研究分野	備考
応用物理学	量子物性工学	教授	浅野泰寛	物性物理学の理論研究，量子輸送現象，トポロジカル超伝導，超伝導現象論	
		准教授	池谷聡		
		教授	鈴浦秀勝	物性理論，特に，電子系の量子輸送現象と光学応答の理論	
		准教授	渡邉光	磁性体や超伝導体などの量子物質が示す新しい輸送・光学応答の理論開拓	
		助教	江上喜幸	ナノ構造の電子物性，電子輸送現象，第一原理シミュレーション	
		教授	市村晃一	超伝導，電荷・スピン密度波，量子トポロジー理工学，低次元電子物性，低温物性，超薄膜物性，走査トンネル顕微鏡/分光，分子線エピタキシー	
		准教授	黒澤徹		
		助教	迫田將仁		
		教授	松田理	超短パルスレーザーによるナノスケール超音波発生・検出，表面弾性波の可視化，固体中の超高速の電子・熱拡散，音響メタマテリアル，力学系メタマテリアル，プラズモニクス，トポロジカフォノニクス，有機導体の超高速電子ダイナミクス，極低温・高圧下時間分解分光開発	
		准教授	土屋聡		
	凝縮系物理工学	教授	野村竜司	超流動，量子液体，量子固体，低温物理学	
		准教授	小林拓矢	有機伝導体の電子物性，超伝導，磁性，核磁気共鳴，高圧下物性	
		准教授	髙倉洋礼	結晶物理学，回折結晶学，準結晶の構造と物性，複雑構造合金結晶，非周期結晶構造解析，金属磁性と電子輸送	
		助教	柏本史郎		
		准教授	内田努	ナノバイオテクノロジー，単原子・ナノイメージング，グラフェン，高分解能電子顕微鏡，水・氷・クラスレート，結晶成長，ナノバブル，細胞凍結保存	
		助教	山崎憲慈		
	光波動量子物理工学	教授	森田隆二	※ 非線形光学，非線形レーザー分光，光渦(位相特異性をもつ光)・軸対称偏光(偏光特異性をもつ光)，光マニピュレーション，チャープパルス増幅	
		准教授	山根啓作		
		助教	覚間誠一	光干渉計測，波長制御レーザによる精密長さ測定，レーザレーダ	
		教授	足立智	固体光物性，半導体量子ナノ構造のスピン物性，スピンダイナミクスのコヒーレント制御，核スピン分極制御，希土類添加結晶での量子メモリ開発	
		准教授	鍛治怜奈		
		准教授	関川太郎	超高速光科学，高光電場物理，アト秒科学，光化学反応ダイナミクス	
		教授	長谷川祐司	量子力学実験，量子光学，中性子光学，量子基礎論	
		准教授	小林淳	冷却原子，レーザー冷却，極低温分子，精密分子分光，量子縮退気体，狭線幅レーザー	
	固体量子物理工学	教授	小布施秀明	開放量子系，非エルミート系，量子ウォーク，トポロジカル相，不規則系の物理に関する理論	
		特任講師	水野誠司	ナノスケール構造におけるフォノン，電子輸送現象，電子・フォノン相互作用，フォノニック結晶，NEMS，ナノワイヤー超格子、音響メタマテリアル、ファノ共鳴、連続体中の束縛状態(BIC)	
		教授	戸田泰則	超伝導体・半導体の光物性および光制御，時空間分解分光開発と光物性探索応用	
		准教授	吉川尚孝	トポロジカル物質・磁性体・電子秩序の光物性・光制御，テラヘルツフォトニクス，超高速レーザー分光	
		准教授	笹倉弘理	量子通信，半導体量子ナノ構造の光物性，量子光学，エピタキシャル成長	
		助教	白峰賢一		
	ナノ物理工学	教授	松尾保孝	金属ナノ構造の光物性、プラズモン誘起電荷移動ダイナミクス、光エネルギー変換、表面・界面化学、メタサーフェス、バイオミメティクス、半導体微細加工、質量分析	
		准教授	石旭		
材料科学	エコマテリアル	特任教授	岩井一彦	※ 電磁場，超音波を利用した材料プロセス，結晶配向，新規鋳造プロセス	
		教授	菊地竜也	アノード酸化(陽極酸化)を用いた自己規則化ナノマテリアルの創製，高速超親水・滑落性制御型超撥水金属材料の開発，ナノ構造の最適設計による機能性金属材料の創製，水滴発電機の開発，持続可能な湿式金属リサイクル技術の開発	
		教授	上田幹人	溶融塩・イオン液体化学、電解製錬工学，金属資源リサイクル，金属表面反応の分光学的その場測定，腐食防食工学，自動車用燃料電池の応用工学，次世代Li電池開発，核融合に向けた水素同位体分離	
		准教授	松島永佳		
	マテリアル設計	教授	三浦誠司	次世代材料(金属間化合物基耐熱合金，軽量MgおよびAl合金，強靱セラミック材料，構造用鉄鋼材料)の機械的・物理的性質(材料物性・材料強度・相安定性)の実験的探求と，第一原理計算やコンピューターシミュレーションも用いた理論構築	
		准教授	池田賢一		
		教授	大野宗一	材料組織学，計算材料科学，凝固工学，データ科学，構造用金属材料，組織形成モデリング，原子シミュレーション	
		教授	米澤徹	半導体産業向け材料の開発、ナノ材料の合成・物性評価・応用開発，エコナノ材料の設計と構築，導電ペーストの開発，金属微酸化粉，電子顕微鏡開発，エネルギー輸送ナノ材料開発，2次電池材料開発，金属材料の環境劣化，酸化物皮膜の微細構造解析学，レーザー照射－AFMによる微細加工，新規電界コンデンサ・セラミックスコンデンサの開発，有機－無機複合材料，光化学と人工光合成，新規金属空気電池の実用化	
		特任准教授	坂入正敏		
	エネルギー材料	教授	橋本直幸	高エネルギー粒子照射による材料の損傷，エネルギー炉用材料の照射下安定性評価，核融合炉材料の開発，水素吸蔵材料の開発，水素化特性の微視的解析，水素利用安全技術開発，新規ハイエントロピー合金の開発	
		准教授	礒部繁人		
		准教授	岡弘		
		教授	林重成	高温かつ過酷環境下における耐熱合金・コーティングの開発，発電ボイラー，ガスタービン，化学プラント等に用いられるNi，Fe，Co基の高温材料やコーティングの高温腐食，機械的特性向上に関する基礎的・応用的研究	
		准教授	上田光敏		
		准教授	米田鈴枝		
	エネルギー変換マテリアル	教授	坂口紀史	高分解能電子顕微鏡，電子エネルギー損失分光，第一原理計算，物質の原子・電子構造，機能材料設計，二次元材料，水素関連材料	エネルギー・マテリアル融合領域研究センター
		准教授	國貞雄治		
		教授	渡辺精一	※ 光反応科学とナノ材料，光エネルギー及び熱エネルギー変換材料の開発と評価，太陽電池，熱電素子，光触媒材料	
		准教授	沖中憲之		
		准教授	張麗華		
		教授	能村貴宏	CVI製鉄，水素製造・貯蔵・輸送，電池材料合成，燃焼による材料合成，蓄熱技術，エクセルギー解析，エコ・コンビナート設計	
	マテリアル製造（連携講座）	客員教授	堀本雅之	鉄鋼製造プロセスに関する研究	(日本製鉄株式会社)
		客員教授	中井由枝	鉄鋼製造プロセスにおける製鋼・精錬技術に関する研究	(JFEスチール株式会社)
	フロンティアエネルギー工学（連携講座）	客員教授	山下真一郎	軽水炉用事故耐性燃料(ATF)及び原子炉構造材料の開発研究	((国研)日本原子力研究開発機構)
		客員准教授	矢野康英	高速炉の炉心材料開発，中性子照射や熱時効が強度特性に及ぼす影響	((国研)日本原子力研究開発機構)
		客員准教授	髙澤孝一	圧力容器用高強度低合金鋼の開発及び鋼の水素脆化に関する研究	((株)日本製鋼所)
		客員准教授	萩沢武仁	エネルギー分野における金属粉末材料の開発−金属積層造形	((株)日本製鋼所)

注1）助教は博士後期課程の指導教員になることができません。
注2）※を付した教員は2027年春退職予定。ただし，そのうち特任教員以外の教員は，引き続き1年または2年間在職する場合があります。

専攻	講座	教員		研究分野	備考
機械宇宙工学	宇宙システム工学	教授	永田晴紀	宇宙工学，ロケットシステム，宇宙機器設計，ミッション解析，推進工学，プラズマ工学	
		准教授	西井啓太		
		助教	脇田督司		
		教授	橋本望	微小重力場における燃焼現象，宇宙環境利用技術，代替燃料燃焼，燃焼不安定性，バイオマス由来燃料の燃焼，火災物理科学，反応性熱流体数値シミュレーション，燃料液滴の蒸発現象	
		准教授	金野佑亮		
		特任教授	大島伸行	※ 数値シミュレーション，乱流，反応流，気液混相・超臨界流，航空機空気力学，自動車空気力学，ガスタービン・ロケット燃焼器，流体構造連成問題	
		准教授	寺島洋史		
		准教授	高橋裕介	宇宙工学、高速流体・高温気体力学，大気再突入問題，流体構造連成問題，数値解析	
	機械フロンティア工学	特任教授	渡部正夫	蒸発・凝縮機構に関する分子動力学及び分子気体力学を用いた解析，気泡力学，固体表面への液滴衝突，界面における輸送現象，生体や農産物における光・輻射の輸送現象	
		教授	小林一道		
		准教授	藤井宏之		
		教授	高橋航圭	複合材料のマイクロメカニクス，接着・粘着現象の界面強度，高分子材料の粘弾性・疲労，金属材料の超高サイクル疲労・微細組織制御，有限要素法による応力解析，材料試験システムの開発	
		教授	佐藤太裕	材料力学，構造力学，弾性力学，構造安定論，構造形態学，ナノメカニクス，プラントミメティクス，振動を利用した表面改質，金属材料の疲労	
		教授	藤村奈央		
		特任准教授	加藤博之		
		准教授	津川暁		
	宇宙探査工学（連携講座）	客員教授	菊池政雄	宇宙環境利用工学、宇宙実験技術、微小重力利用燃焼研究、プロジェクトマネジメント、システムズエンジニアリング	((国研)宇宙航空研究開発機構)
		客員准教授	松山新吾	数値シミュレーション，燃焼流，乱流，熱化学非平衡流，極超音速流，乱流燃焼，ロケット・ガスタービン燃焼器，大気圏突入	
		客員准教授	丸祐介	宇宙飛翔体システム，宇宙推進システム	
人間機械システムデザイン	バイオ・ロボティクス	教授	東藤正浩	バイオメカニカルデザイン，生体骨のバイオメカニクス，整形外科バイオメカニクス，バイオマテリアル，生体機械システム工学，X線材料強度学	
		准教授	山田悟史		
		教授	清水裕樹	超精密計測・制御，光計測・制御，表面形状計測，高機能表面創成，センサ，ロボティクス・ダイナミクス，ロボット構造解析と制御，機械システムの動特性解析と運動制御，自律ロボットのナビゲーション，ドローンによるインフラ点検，雪道環境における自動運転技術の開発，農林業支援ロボット	
		准教授	江丸貴紀		
		教授	梶原逸朗	知的構造システム，スマート構造，レーザー応用振動試験，制御技術の産業応用，ロボティクス，移動ロボット機構，バイオミメティクス	
		准教授	原田宏幸		
		助教	米沢平成		
	マイクロシステム	教授	戸谷剛	超小型衛星の熱設計・熱制御機器，宇宙用ラジエータ，放射の波長制御，混相流，非ニュートン流体の熱・輸送物性，氷スラリーの流動・相変化現象，熱流動，輸送・拡散・混合現象，低温物理，相変化，混相流，複雑流体，ソフトマター，光学的可視化実験，デジタル画像処理	
		特任助教	能登大輔		
		教授	大橋俊朗	生体工学、バイオメカニクス，バイオエンジニアリング、バイオMEMS，バイオチップ，細胞・組織バイオメカニクス，医用生体工学，計算バイオメカニクス，整形外科バイオメカニクス、植物バイオメカニクス、微小重力空間バイオメカニクス	
		助教	豊原涼太		
		教授	本田真也	変形制御学，連続体の振動解析，物理モデルAI，複合材料構造および機械構造の最適設計，複合材の新規製造法の開発，パラメータ最適化構造解析，医療用デバイスの最適設計，血管に関わる構造ー流体連成解析，膝関節靭帯組織の力学測定，膝関節運動解析	
		助教	武田量		
	バイオメディカルシミュレーション（連携講座）	客員教授	横田秀夫	バイオモデリング，生体の力学特性計測，バイオイメージング，医用画像工学，バイオシミュレーション	国立研究開発法人理化学研究所
		客員准教授	金内智子	画像処理，画像認識，画像処理システム，バイオイメージ・インフォマティクス	
エネルギー環境システム	エネルギー生産・環境システム	教授	千葉豪	原子炉炉心設計，原子炉物理，放射線輸送計算	
		准教授	藤田達也		
		特任教授	澤和弘	新型炉安全設計，核分裂生成物移行挙動，核燃料工学，セラミックス材料	
		准教授	河口宗道	高速炉安全性，シビアアクシデント，放射性物質，ナトリウム工学	
		教授	小崎完	放射性廃棄物処理処分の安全評価，原子炉材料学，核燃料工学，原子炉廃止措置，環境放射能，セメント化学	
		教授	渡邊直子		
		准教授	森永祐加		
		特任教授	中島宏	※ 放射線遮蔽，放射線物理学，放射線防護，放射線および原子力施設の安全管理，核物質防護，軽水炉再稼働支援，廃炉及び福島復興支援	
	応用エネルギーシステム	教授	田部豊	熱エネルギー変換及び利用工学，反応を伴う熱物質移動の解析制御，環境低負荷型エネルギーシステム，燃料電池，大容量二次電池，リチウム空気電池	
		准教授	植村豪		
		教授	田坂裕司	流体力学：流れの不安定性，乱流遷移，複雑流体のレオロジー 流体計測：超音波と光による流れ場の時空間測定，超音波センシング，レオメトリ 流体工学：船舶の抵抗低減，混相流の制御，風洞実験，複雑流動の予測	
		助教	朴炫珍		
		准教授	柴田元	カーボンニュートラルエネルギー、液体合成燃料、エンジンシステム工学、高性能エンジン	

注1）助教は博士後期課程の指導教員になることができません。
注2）※を付した教員は2027年春退職予定。ただし，そのうち特任教員以外の教員は，引き続き1年または2年間在職する場合があります。

専攻	講座	教員		研究分野	備考
量子理工学	応用量子ビーム工学	教授	大沼正人	中性子・X線による物質・材料研究	
		助教	平賀富士夫 ※		
		准教授	金子純一	放射線計測学, 耐放射線性半導体デバイス開発, 廃炉工学	
		教授	松浦妙子	粒子線治療工学, 放射線医学物理学, 医用画像工学	
		准教授	宮本直樹		
		教授	加美山隆	中性子イメージング, 加速器中性子源, 中性子デバイス, 中性子実験装置, X線融合, 量子ビームによる材料研究, 宇宙線中性子ソフトエラー	
		准教授	佐藤博隆		
	プラズマ理工学	特任教授	富岡智	プラズマ・ビーム電磁界解析, 逆問題解析, 非破壊診断, プラズマ生体相互作用, 核融合工学, プラズマ表面相互作用, 真空工学, レーザープロセス	
		准教授	山内有二		
		助教	松本裕		
		教授	佐々木浩一	プラズマ計測, プラズマ応用工学, プラズマナノ科学, プラズマ環境工学, レーザーアブレーション	
		准教授	白井直機		
		助教	信太祐二	核融合炉材料, 水素吸蔵, 表面改質, 照射損傷	
		准教授	富田健太郎	プラズマ計測, プラズマエレクトロニクス, プラズマX線源, レーザー生成プラズマ	
	ナノ材料科学	教授	柴山環樹	量子ビームによるナノ材料の創成と物性の評価, 複合量子ビーム超高圧電子顕微鏡, 非平衡材料科学, 量子ビーム利用材料, ナノ材料創製, 原子炉材料, 核融合炉材料, 透過電子顕微鏡による半導体界面の微細構造解析, メカノケミストリー, 水素貯蔵材料, 電池材料	エネルギー・マテリアル融合領域研究センター(量子エネルギー変換材料)
		助教	中川祐貴		
	物質構造科学(連携講座)	客員教授	熊井玲児	パルス中性子及び放射光によって物質の構造とダイナミクスを調べることにより, 物質の機能発現や生命現象の本質に迫る	(大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構)
		客員教授	森一広		
		客員教授	遠藤仁		
	核融合科学(連携講座)	客員教授	Peterson Byron Jay	核融合プラズマ物理, プラズマ計測工学, 核融合炉工学	(大学共同利用機関法人 自然科学研究機構)
		客員教授	田中照也		
		客員准教授	本島巌		
環境フィールド工学	水圏環境工学	准教授	岩崎理樹	河川工学, 水工学, 土砂水理学	
		助教	田中岳	水文学(流出解析・洪水予測), 防災工学・教育(教育実践・教材開発)	
		教授	泉典洋	河川工学, 河川環境工学, 水工水理学, 水文気象学, 大気陸面相互作用, 地球水循環システム	
		教授	山田朋人		
		助教	宮本真希		
		教授	渡部靖憲	海岸工学, 流体力学	
		教授	猿渡亜由未	海岸工学, 海洋気象学	
	防災地盤工学	教授	渡部要一	人工・自然地盤物性学, 地盤安定・変形の評価・対策, 都市防災地盤工学, 海岸・沿岸域等のフロンティア地盤開発	
		教授	西村聡		
		助教	福田文彦		
		教授	石川達也	寒冷地地盤防災工学, 交通地盤工学, 土・水マルチフィジックス解析	
		准教授	磯部公一	地盤耐震工学, 地盤と構造物基礎の相互作用, 地盤防災工学	
		助教	横濱勝司	建設廃材のリユース, 地盤補強工法, 地盤温度の活用による発電	
		教授	杉山隆文	構造材料工学, 環境コンクリート工学, 高性能コンクリート構造学	
		准教授	橋本勝文		
北方圏環境政策工学	寒冷地建設工学	教授	宮森保紀	構造工学、地震工学、構造動力学、構造モニタリング	
		准教授	北原優	構造信頼性, データ科学, 構造工学, 地震工学	
		教授	松本高志	橋梁工学, 鋼構造, 複合材料・構造, 構造設計・維持管理	
		准教授	古川陽	応用力学, 計算力学, 弾性波動論, 非破壊評価	
		助教	佐倉亮	橋梁工学, 鋼構造, 構造工学, 構造設計, 維持管理	
		教授	長井宏平	構造工学, 微細構造解析, 成熟社会インフラマネジメント, 国際協力	長井:公共政策学連携研究部(博士後期課程のみ担当)
		准教授	松本浩嗣	維持管理工学, コンクリート構造学, 構造解析	
	技術環境政策学	教授	内田賢悦	交通ネットワーク解析学(自動運転, 公共交通, 交通データ解析), 都市経済学, インフラマネジメント計画, 防災計画, 政策評価, 不確実性下の意思決定論	
		准教授	蛤龍一		
		教授	岸邦宏	交通計画, 交通工学, 都市計画, リスク・マネジネント, 合意形成	
		准教授	鈴木雄	地域計画, 交通計画, 都市計画, 交通工学	
		教授	吉井稔雄	交通工学, 交通マネジメント, 事故リスク解析, 交通計画	公共政策学連携研究部
		准教授	髙橋翔	画像・映像解析, 道路・交通モニタリング, 交通工学, 情報工学応用, AI・ICT・IoT	
建築都市空間デザイン	空間防災	教授	岡崎太一郎	建築構造, 耐震構造, 鋼構造, 地震工学	
		准教授	松井良太		
		特任教授	菊地優 ※	免震構造, 耐震工学, 地震工学, 環境振動, 制振(震)構造, 振動制御, 振動台実験, 非線形動的挙動, 損傷制御, 鉄筋コンクリート構造	
		准教授	白井和貴		
		助教	越川武晃		
		教授	高井伸雄	地震工学, 強震動地震学, 都市防災学	
		准教授	中嶋唯貴	地震工学, リスクアセスメント, 人的被害, AI・ICT・IOT防災, 防災モニタリング, 深層学習の防災的応用	
	空間計画	特任教授	小澤丈夫 ※	建築意匠, 建築設計, 都市空間デザイン, 建築史, 歴史的建築物の保存活用	
		准教授	角哲		
		助教	内藤誠人		
		教授	森傑	建築計画, 都市計画, 環境行動デザイン, ユニバーサルデザイン	
		准教授	野村理恵		
		教授	瀬戸口剛	都市計画, 都市再生計画, 都市地域デザイン, 田園景観, コミュニティデザイン, 都市地域まちづくり	
		准教授	渡部典大		

注1)助教は博士後期課程の指導教員になることができません。
注2)※を付した教員は2027年春退職予定。ただし, そのうち特任教員以外の教員は, 引き続き1年または2年間在職する場合があります。

専攻	講座	教員	研究分野	備考
空間性能システム	空間性能	准教授 若林 斉 助教 李 相逸	環境人間工学, 環境生理学, 環境適応, 生理人類学, 環境行動心理, 職・住環境マネジメント	
		教授 葛 隆生 助教 劉 洪芝	環境システム工学, 再生可能エネルギー有効利用, 空気調整工学, ゼロエネルギー建築	
		教授 森 太郎	建築環境学, 建築設備, 北極圏域研究	
	建築システム	教授 平野陽子	木造建築、木質構造、木質材料、木材利用、森林資源	
		准教授 松島潤平	建築設計, 建築意匠, 空間デザイン, インテリアデザイン, ランドスケープデザイン	
		准教授 菊田弘輝	環境空間デザイン学, 建築衛生, サスティナブル建築	
		教授 濱 幸雄 准教授 石井 建	建築構造学, 性能設計, 免震	
		教授 北垣亮馬	建築材料科学, コンクリート化学, 建設系高分子物理	
		助教 呉 多英	建築材料科学, コンクリート・セメント化学	
環境創生工学	水代謝システム	教授 岡部 聡 准教授 押木 守	生物学的水処理工学, 環境微生物工学	
		教授 木村克輝 准教授 羽深 昭	環境衛生工学・水処理工学, 下水道工学, 排水再利用, 排水からの有価物回収	
		教授 松下 拓 准教授 白﨑伸隆	環境リスク工学, 上水道工学, 水処理工学	
		教授 佐藤 久 助教 中屋佑紀	水質・生態環境解析, 水処理工学, 分析化学	
	環境管理工学	教授 東條安匡	廃棄物の熱処理・最終処分・リサイクル、除染廃棄物・災害廃棄物処理	
		教授 石井一英	循環共生システム, バイオリサイクル, 廃棄物管理, 合意形成, 脱炭素, 土壌・地下水汚染	
		特任助教 山形 定 助教 深澤達矢	※ 森林バイオマスの管理と活用, 地域社会における自然エネルギー活用	
環境循環システム	資源循環工学	教授 大竹 翼 准教授 大友陽子 助教 菊池亮佑	応用地質学, 環境鉱物学, 地球化学, 鉱床学, 地質材料の評価・利用, 廃棄物の地層処分, 地球と生命の共進化, リモートセンシング	
		教授 佐藤 努	鉱物材料の評価・利用, 二酸化炭素のネガティブエミッション技術, 放射性廃棄物の地層処分, 有害廃棄物の安定化処理・処分	
		准教授 胡桃澤清文	建設廃棄物の資源化・リサイクルシステム, 建設材料学, 無機材料化学, 計測法の開発と情報処理	
		教授 伊藤真由美 准教授 PARK ILHWAN	資源再生工学(廃棄物の資源化・リサイクルなど), 資源処理(未利用資源・難処理資源の活用と高付加価値化), 環境保全修復, 選鉱・製錬	
		教授 廣吉直樹	資源分離精製, 金属製錬, 反応工学, モデリング, 界面化学, 電気化学	(廣吉:博士後期課程のみ担当)
		准教授 有馬孝彦	土壌地下水汚染, 坑廃水, 地盤環境工学, 地下水工学, 環境修復	(有馬:博士後期課程のみ担当)
		教授 川村洋平 特任教授 児玉淳一	資源情報学, スマートマイニング, 資源開発工学, 鉱山工学, 採鉱工学, 地下インフラ構築, トンネル工学, 推進工法	(川村:博士後期課程のみ担当) (児玉:博士後期課程のみ担当)
		教授 安達 毅	資源経済学、資源システム工学、資源の持続可能な供給、金融工学、ファイナンス、資源生産の環境影響評価	
	地圏循環工学	教授 川﨑 了 准教授 福田大祐	岩盤工学, 発破工学, トンネル工学, 岩盤斜面工学, 大深度地下利用, ビーチロック, バイオセメント, 地盤環境工学, 生物地盤工学, 数値解析(破壊過程解析, 連成解析, 大規模計算)	
		特任教授 藤井義明	※ 資源環境工学, 資源開発工学, 岩盤工学	(藤井:博士後期課程のみ担当)
		教授 ヨガラジャ エラクネス	反応工学, 化学モデリング, 地球化学, 界面化学, 建設材料設計, 石油工学, CO2キャプチャー	
		教授 中島一紀	生物工学, 環境浄化, 有価金属回収, バイオミネラル, バイオミメティクス, 機能性バイオ材料	(中島:博士後期課程のみ担当)
		助教 高野 力	生物工学, 環境浄化, 有価金属回収, バイオミネラル, バイオミメティクス, 機能性バイオ材料	
	環境リスク評価学 (連携講座)	客員教授 保高徹生	環境リスク学, 地盤環境工学, サステナブル・リメディエーション(持続可能な環境修復), リスクコミュニケーション, 社会経済影響評価, 感染症対策, サーキュラーエコノミー, ネイチャーポジティブ	国立研究開発法人産業技術総合研究所
共同資源工学(修士課程のみ)	国際資源環境工学	教授 廣吉直樹	資源分離精製, 金属製錬, 反応工学, モデリング, 界面化学, 電気化学	
		教授 川村洋平 特任教授 児玉淳一	資源情報学, スマートマイニング, 資源開発工学, 鉱山工学, 採鉱工学, 地下インフラ構築, トンネル工学, 推進工法	
		特任教授 藤井義明	※ 資源環境工学, 資源開発工学, 岩盤工学	
		准教授 有馬孝彦	土壌地下水汚染, 坑廃水, 地盤環境工学, 地下水工学, 環境修復	
		教授 中島一紀	生物工学, 環境浄化, 有価金属回収, バイオミネラル, バイオミメティクス, 機能性バイオ材料	
		助教 MIN Gyeongjo	岩石力学(岩石動力学, 岩石破壊力学), 岩盤工学, 発破工学, 数値解析(破壊過程解析, 大規模計算)	

注1)助教は博士後期課程の指導教員になることができません。
注2)※を付した教員は2027年春退職予定。ただし, そのうち特任教員以外の教員は, 引き続き1年または2年間在職する場合があります。